

# 文芸サロン作品集

2023年7月

シニアネット福岡

(SNF)

文芸愛好会



短歌

宮 由枝

◎ 炎天にいきほひ延びし高枝に

巢がくる蜘蛛の糸見苦しき

◎ ととのはぬ蜘蛛の巣なれどかかる虫

にはかの夏の雨に濡れをり

◎ 掛け替へし軸ひしに緋鯉ひしの朱の色は

仏間の床をほの明あかるます

◎ 傷舐むる野猫のまなこ油断なく

紫陽花のもと雨宿りせり

◎ 夏の日に迷彩色の幹高く

プラタナス並木葉を広げたり

◎ 大樟くすの洞うろおく深くうごめける

蟻の暮らしを夏日つまし明るく見せるるくす

◎ 背ぼたんの釦留めてくれにし夫亡つまきに

鏡に確かむ夏衣なり

◎ 焼き茄子の紫熱き皮剥けば

身のさみどりに透きとほりつつ

タイパ。タイムパフォーマンスを略してタイパ。いまの若い世代では日常的に使う言葉だという。パフォーマンスはビジネス用語コストパフォーマンスからきている。費用対効果、かけたコストにふさわしい成果を出せたか、というとき、コストパフォーマンスが良いとか悪いとか言っつて、社長は営業や開発の尻をたたく。

タイパは時間、タイム、つまり時間をかけただけの成果、果実が得られるか、若者たちは今スマホやパソコンで映画など動画を見るとき早送りで見られるらしい、それがはやりだという。会議がだらだらとつづくのはタイパが悪いと批判。二十〜三十代にとどまらず四十〜五十代の中高年もこのタイパの愛用者だと聞く。映画も早送りで見ると。これでは感動も感激も余韻もなかるうに、と思う。効率、時間、手間暇無し、手っ取り早い、がそんなに大事なのか。

限られた時間をいかに効率よく使うかは人間社会の昔からのテーマ。そして今、現役世代は公私ともにやることがいっぱいある。まことに気ぜわしい。仕事も遊びも勉強も人付き合いも、やることが山ほどある。タイパは暮らしの有力な指標かもしれない。

でもね、なんとなく世の中がせかせかしているように思えてならない。老いの身の偏見か、ひがみか、被害妄想か。

日常的に接触の多いクリニク。七、八人の受付の女性がいる。結構忙しい。一服する暇もなく働きづめ。中にいかにも仕事ができそうな女性が一人いる。患者がわんさとやってくる。初診、再診、入院院の手続き、さらに会計事務、金勘定を見事にこなす。処理が手早い。患者対応もお見事。でもね、なにかせかせか感がある。ゆったり感がない。ぬくもりがない。キャリアーウーマンによく見かけるタイパだ。それこそタイパ、タイパといひそうな雰囲気を漂わせている。雇い主の医師にとっては貴重な人材である。ただね、そこはちよっとお手柔らかにと言いたくなる。少しのゆったり、おっとりが欲しいなあ、たまに失敗やスカタンもしてよ、出来の良い人を見るとついついものねだりをしてしまう。不器用でドジを踏むことの多い我が身から悲痛な叫びである。

もともと出来の良い人にはなじめないところがある。愚かなひがみ根性である。どちらかというと、手間のかかる人、感度のにぶい人、不器用な人、呑み込みのにぶい人や遅い人に親しみを感じる。類は友を呼ぶ、自然と似た者同士が集

まる。何をやらしても手際よく快刀乱麻の人は苦手。それを誇らしげにする人、自慢げな人、これは大苦手。

さらに大苦手は、感度が鈍くて不器用なのにその自覚のない人。私はちよっと奥手でありましてと、自覚して謙虚にしておればよいのに気づかずの人に迷惑をかけている御仁、これは困りますね。

ちよっとニュアンスの違う話になるが「含羞」・・なんとなくこの言葉に親しみを覚える。はじらい、はにかむ、はずかしがる、と辞書にある。含羞の人などと言つて故人を懐かしむことがある。

高校の同窓会があった。進学クラスの同窓会。その中でトップ、スイスイと難関大学に合格した男がいる。立ち話で尋ねてみた。みんな休み時間でも教科書や辞書を広げていたがあなたは一向に勉強している風には見えなかったがいつ勉強してたの、と。それはね、先生の授業をよく聞いておれば十分だよ、とのたまう。こちらの問いかけには返答にある期待があった。謙遜か軽いジョークで答えが返つてくると待ったが先生の授業で十分だよと、味もそっけもない反応にガツクリ、がっかり。

どうやらこの男はそういう人物らしい。生真面目と言えなくもないが味がないう人、無味乾燥、カラカラ、面白みのない人、スキを見せない人、粹や風流に縁遠い人。

洒脱ということ言葉が浮かんだ。さっぱりして嫌味がない。自分自身、そうなりたいかねて思い続けている。欠損願望という高望み症候群である。

愚直という言葉も浮かんだ。知恵が無く正直一途で臨機応変の才がないこと、と辞書にある。

笠智衆。昭和の映画俳優。小津安二郎監督の「東京物語」。老夫婦の夫役。所帯を持っているこどもに会いに夫婦で上京する、子供たちはそれぞれ仕事や生活で多忙。邪険に扱われる。一番親身に老夫婦の面倒を見るのが戦死した長男の嫁原節子。子供と嫁の間でさまよう年老いた親。それでもみんな無事暮らしてきてよかったと静かにつぶやく夫、その後ろ姿はいたって寂しげであるが口に出さない。笠智衆は後ろ姿で役を演じると言われる名優である。

有名なアスリートが告白している。妻から言われた。あんた最近は天狗になっている。そんな状態だと応援されなくなるわよ、と。自分はもともとサラリーマンだし周囲への配慮はしていたつもり。大会開催にどれだけ多くの人たちが陰で支えてくれているか、そうした人たちの気持ちも十分に理解しているつもり

だった。ところが一番身近で見ている妻にはいつのまにか強者のおごりを感じさせる態度が目についたようだ。確かに万事如才なく振舞える性格ではない、特別愛想がいいわけでもない。だから一層傲岸不遜の人間に見えたかな。アスリートは競技で結果を残ささえすればよいのだという気持ちがあるところどこかにあった。知らず知らず横柄な態度をとっていたのは事実……と。

妻の指摘はショック、猛省。それ以来初対面の人にも話しかけやすい雰囲気づくりを心がけぐつと年下の人にも敬う気持ちと姿勢を忘れないようにした。すると、周囲の協力者が増えたと自分の競技力も上がったという。

このアスリート、子供によく聞かれる。世界的な選手になるにはどうすればよいですかと。感謝の気持ちとだれからも好かれる選手になることと答えるそうだ。運は全くの偶然ではない。自分の手をつかめるように努力し、引き寄せることもできる。このアスリートの辿りついた心境である。

日本の若き二人の「静」と「動」、藤井聡太と大谷翔平 壱岐市 篠崎美代子

新聞の俳壇の一句ですが二人とも言葉遣いも振る舞いもいたってひかえめである。とても日夜戦いに身を置いている戦士とは思えない。一瞬一瞬が激烈な戦いである。体力、気力、知力、心技体の総動員、相手も一歩も引かない。双方傷だらけ。そんな日常からあした飛び切りひかえめな言葉や行動が出ることにすぎさ。こういう風に人間は育つものなのか。

藤井聡太がデビュー以来連戦連勝を続けていたところ、まだ中学生のころ、戦いの感想を聞かれて「望外の結果です」と答えたそうだ。この望外という中学生の言葉に周りはびっくり。

名人になったときの新聞記事に「その表情にはあどけなさを残す二十歳。謙虚な姿勢を貫き、他者への敬意を忘れず、いつも穏やかに笑っている」新聞記者も最高級のひかえめをどうという表現すればよいか困っているように見える。

その翌日、カンヌ国際映画祭で男優賞を受賞した役所広司さん、受賞後も淡々としている。海外からの出演依頼も増えそうですねとの問いかけに「日本人を演じられて自分の演技が役に立つようないい作品であれば参加したい。でも基本的には自分たちの国の映画で世界中の人に楽しんでもらえれば、一番の早道かな」と思っている「誇らしげに語っている」。

水無川に思いよ寄せて

新川 正恵

母の生き越し年齢を超えて 三年が過ぎ六月二日八十一歳のスタートを切った。

解きゆく妣の袖の袂から懐紙に包む香水におう

吾産着着せて作りし市松人形に恵むと名つけ共に生きおり

コロナ禍が落ち着き弘法大師の足跡を辿りお遍路に出かけようと考え一國参りの四回で結願できるコースに参加。六月二日から三泊四日で土佐の国(高知県)二十カ寺を廻った。

雨後の道寄り添いて咲く紫陽花の遍路道行く同行二人

太平洋昇るお日さま拝みつつ健やかなること今日の感謝を

燈明を上げ香を焚きお札を納める。先達の声に合わせて経を上げる。  
本堂と太師堂同じ作法で参拝 清々しい。

室戸岬に日の出を拝み足摺岬に日没を拝む一日の恵

先祖の安らかなる眠りを祈り、子らの幸せを私に繋がる多くの人々の平安を願う。健康に感謝しつつこの安らかなる日本に在りて大切な真実を忘れないようにしたい。



糸島市の前原駅の近くに、木曜日の午後を休診にする医院がある。その二階は、スタンドピアノを備えた二十畳ほどのホールになっている。ここに休診時間に合わせて月二回、シャンソンを習いに行くようになった。

前原駅前に、年老いた姉妹が営んでいる古いスナックがあった。Cの字型のカウンターに十二、三席ほどの椅子が並ぶ小さな落ち着いた店である。若い頃から糸島での飲み会後の二次会で訪れては、飲んだり歌ったりしていた。

私より七、八歳年上のこの店の姉は、シャンソンでは福岡市内でも名の知れた歌い手であり、ホテルなどでディナーショウを、年に一、二回催していた。何度かお付き合いで出かけたこともあった。

「貴方の声は、シャンソン向きだ。」と、彼女におだてられて昼間のシャンソン教室に何度か誘われたが、現役時代は無理ですと断り続けていた。

元来、歌は聴くのも歌うのも好きである。小さい頃から、ラジオやテレビから流れてくる流行歌などにつられて一緒に口ずさんでいた。

中学校の音楽の先生から「日本人に音痴は少ない、五パーセントほどもない、少々音が外れていようが、安心して堂々と大きな声で歌え、艶を出すのは覚えてからだ。」と教えられ、歌は大きな声で歌うようになった。

高校生時代「トリオバガボンズ」という名のグループを創って文化祭などで歌う同級生がいた。その中のS君は、東京銀座の「シャンソニエ鳩ぼっぼ」の歌手になった。その彼が、一時帰福のおり、呉服町の大島眼科病院前の小さなシャンソンプ「御園」でリサイタルを開いた。知らせを受けて数人の同級生で出かけた。流暢に歌う彼の歌に感動し、このように歌えたらいいなあと思った。

現役をリタイアした後には久しぶりにスナックを訪ねたとき、改めて誘われた。その彼女からの誘いに、断りきれずに悩んだ。

悩むって事は「少しはやってみよう」という気持ちがあるのからだ。だったら躊躇っても何も始まらない。前を向いて歩き出さねば！ と、フランスの流行歌と言われるシャンソンの教室に通うようになった。

「心に太陽を持って 唇に歌を持って」の一節を心に刻みながら、七十の手習いが始まった。

教室で知り合った五人の仲間に、歌とピアノの二人の先生を加えた集いは、シャンソンだけでなく、春は花見、秋は紅葉狩り、年末はクリスマスなどと楽しい一時をもたらした。だが五年ほどで終わった。

コロナで教室を休まなければならなかった三年間は、高齢の先生の意欲を奪ったのである。ついに昨年の年末、シャンソン教室は閉鎖されることになった。

憎つくきは、コロナである。

(2023年3月)

## 別れの歌

三島 武

今も流れている。深刻で残酷なニュース。  
ウクライナ報道に慣れっことになったテレビの映像に、何も出来ない自分にも  
どかしくなるときがある。

国を護るために、家族を守るために、自由と民主主義を壊さないために、ウク  
ライナの多くの男女が、自ら志願して戦場に赴く姿を目にすると、なおさらのこ  
とである。そこには多くの悲しい別れがある。

七十歳過ぎから始めたシャンソン教室の先生から、この歌はシャンソンでは  
ないが良い歌だから歌ってみないかと勧められた。

汽車は八時に出る

冬の日 は落ちて 細い月が昇る

暗いあなたの目に そっと口づける

今は別れの時 二度と還らぬひと

汽車は八時に出る

この歌は、ギリシヤで二十世紀最大の国民的大作曲家と言われたミキス・テオ  
ドラキスが、自らの戦争体験をもとに作詞作曲した。

原曲を聴いた引き揚げ体験者の五木寛之が、原詞にとられず自らの琴線に  
ふれたまま、戦場に赴く恋人との悲しい別れの情景を詩にしたという。

ポルトガルのポップスであるファド歌手の月田秀子や、若い頃の森進一が歌  
って、見事に日本の歌謡曲にしている。

口に出して歌うと、さだめ（運命）に泣きながら、二度と戻ってこられないで  
あろう人との別れが、涙を誘う。

更に、こころに沁みてくるものがある。

先の大戦で戦況の悪化を察知した父が、身重の母と一歳半の私を、満州の奥地  
の東安から母の実家である安東（現在の丹東）へ疎開させた。

昭和二十年の夏の東安駅。蒸気機関車に牽かれた客車の窓越しに、父と母は、  
今生の別れを覚悟したことであろう。記憶にはないけれど、睨に浮かんでくる。

戦後母は昭和二十一年十一月、私を博多港に連れ帰るのを見届けると同時に  
病で亡くなった。父はシベリアに抑留され、昭和二十五年の春に、母の死を知ら  
ずに還ってきた。

ウクライナでは「汽車は八時に出る」のような別れが、今日も続いている。

（2023年6月）

## 富士登山の思い出

手柴 正義

富士山 (3,776 m) は7月1日、山梨県側の登山道「吉田ルート」が山頂まで開通し、山開きを迎えた。

明け方の曇合目はあいにくの曇り空で、登山客の姿はまばらながらも「ご来光」がわずかに差し歓声が上がった(日経記事の一部)

私の27年前の『富士登山』の思い出を・・・

登山日：1996年(平成8年)8月1日～2日(27年前、年齢60歳時)

参加者：藤江夫妻、平塚夫妻、徳田さん、末松さん、末松産業(株)ねこたま  
(「猫のねこ」、多摩川のたま)社員3名に手柴と妻の合計2名

日 程：8月1日

- ① 9:00 JR御殿場駅集合
- ② 須走5合目登山口(2,000 m)までタクシー
- ③ 10:20～登山開始
- ④ 15:30ころ7合目(3,250 m) 小屋・見晴館到着
- ⑤ 17:00ころ夕食、18:00ころ就寝

8月2日

- ① 4:30～4:50分ころ「御來迎」遥拝
- ② 5:30朝食、5:45ころから登山開始
- ③ 10:00ころ富士山登頂(3,776 m)
- ④ 11:30ころから下山開始、15:00ころ須走登山口到着
- ⑤ 須走登山口より御殿場市営温泉会館までタクシー
- ⑥ 16:00ころ会館到着、温泉入浴&休憩
- ⑦ 17:10ころ会館からJR御殿場駅までタクシー
- ⑧ 17:40 JR御殿場駅着、解散

参考・特記

- ① 山小屋1泊2日 食事付@7,000円  
夕食：ご飯、みそ汁、生卵、佃煮、お新香  
朝食：ご飯、みそ汁、生卵、佃煮、海苔
- ② ビール 600円
- ③ ファイルム(24枚撮り) 1,500円
- ④ 金剛杖(六角棒) <大>1,000円  
<小> 800円

- ⑤ 携帯酸素ボンベ 1,000円
- ⑥ 同道の藤江さん徳田さんは高校同窓生
- ⑦ 「ねこたま」参加の社員さんは、末松産業(株)ねこたまの従業員表彰制度による社業に励んでくれた、猫・犬、大好きの二十歳前の若者たち。

### 取って置き余話

- 1) 山中湖の打ち上げ花火大会を富士山頂上から…打ち上げ花火を眼下に眺める…初めての経験!!
- 2) 頼りにして登った六角棒(大1,000円)に登山記念の焼刻を入れた金剛杖を今も大切に保管しています。
- 3) もう20年も前のことをオープンにしますが…山頂の溶岩石(軽石のような)黒色と茶色の小石を2個無断で持ち帰り、これも大切に保管しています。
- 4) 当時、(株)電通の新入社員教育に約1週間富士登山を入れたプログラムがあったそうです  
今は考えられない特訓…就活に1〜2日程度でしょうか？
- 5) 「ご来迎」とは、高い山の上で迎える日の出だそうです。  
(宗教的な意味合いがあるそうです)  
最近では、日の出を迎える場所が、山の上から、海から、スカイツリー、マンションの窓からであろうと気にしないで「ご来光」というそうです。

さてさて…

あれから27年、10年前の2013年6月22日に世界文化遺産に登録、世界に広がった「信仰」と「芸術」の名峰・富士山情報…今後の登山模様…如何なることになるでしょうか？

山のレジャーランド化が心配です!!

### 参考

文部省唱歌1910年(明治43年) 尋常小学校3年生教材)  
作詞…巖谷小波 作曲者…不詳

富士山(ふじの山)

日本一高い富士山の壮大さと美しさをうたった曲

- 1 あたまを雲の上に出し 四方の山を見下ろして  
かみなりさまを下に聞く 富士は日本の山

(富士山の頂上は雲よりも上にあり 周囲の山を上から見下ろしている  
雷の音も下から聞こえるほど高い 富士日本一「高い」山である)

2 青空高くそびえたち からだに雪の着物着て

かすみのすそを遠くひく 富士は日本一の山

(青空の中に力強く立っており 上には雪をまとっている 山の下の方は  
着物の裾のように遠くまで広がりうっすらと消えていく  
富士は日本一「美しい」山である)

(2023. 7. 3 記)

